

# セル状補強材と地山補強材によるのり面補強工 RRS工法

Reinforced Railroad/Road Slope Structures with Geocell and Reinforcing Bars

## 概要

RRS工法は、セル状補強材と地山補強材による斜面補強工法で、既設盛土および既設切土のり面、自然斜面等を対象に地震や降雨による崩壊が懸念される箇所に対するのり面保護、耐震・耐降雨の対策を目的として開発されたのり面補強工法です。

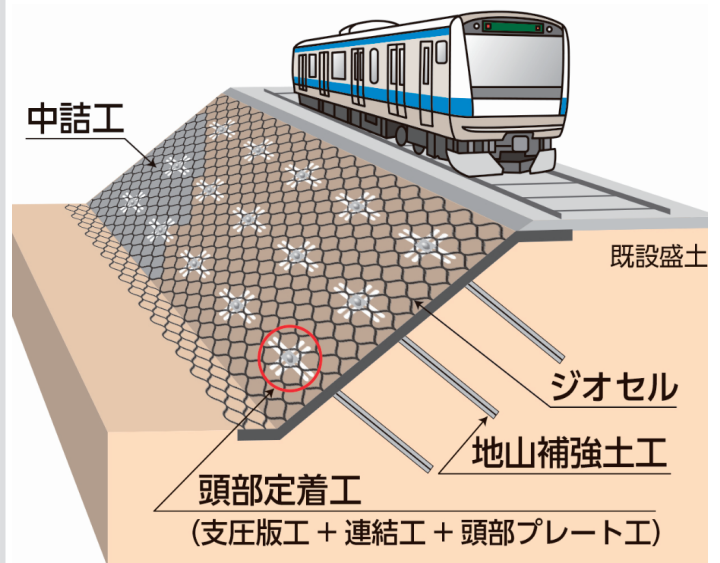
## 特徴

- 盛土・切土のり面や自然斜面等の風化や侵食の防止や耐震・耐降雨補強に寄与することができます。
- セル状補強材（ジオセル）内には碎石（再生材）や緑化土を充填することで景観性が向上します。
- 小型削孔機等と人力を併用することで狭い施工空間においても施工ができます。

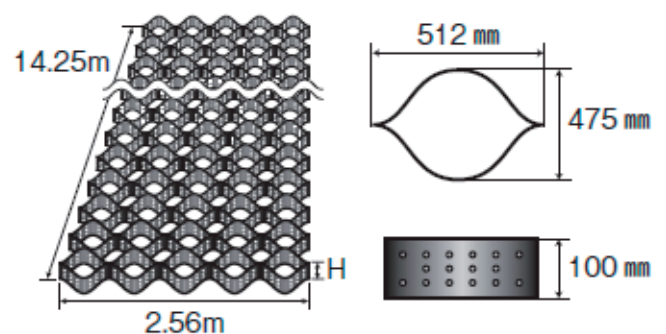
## 用途

- 既設盛土・切土のり面や自然斜面等を対象として、のり面保護から耐震・耐降雨を目的とした補強まで幅広く活用できます。

## RRS工法の概略図



## 使用するジオセル例



セル高さ	100mm
製品強度	1700N/100mm

耐震・耐降雨補強

効率的な施工

経済性の向上

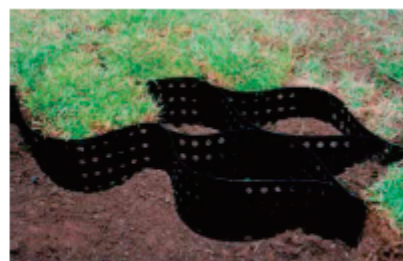
景観性の向上

## ■中詰材は様々な仕様が可能で、緑化もできます

### 中詰材の選択



砕石



緑化（植生土のう）

## ■ジオセルの敷設は人力のみで簡単にできます

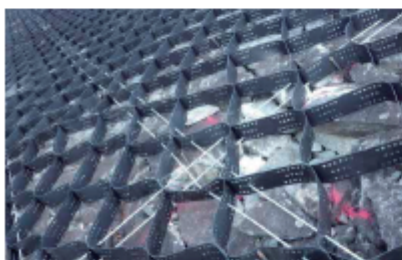
### 施工手順



1 地山補強材の打設



2 ジオセルの敷設



3 連結工



4 頭部定着工



5-1 中詰工（砕石の場合）



5-2 中詰工（モルタルの場合）



6 完成

## ■三陸鉄道南リアス線の復旧工事に採用されました

### 施工事例



復旧後の盛土



復旧後の盛土（開業後）

※RRS工法は鉄道総合技術研究所、ライト工業、複合技術研究所との共同研究になります。